



ミライ 建築の

巻頭言

キーワード

“ウェルビーイング” “サステナブル”

“らしさ” “BIM”

令和5年度“信州の木”建築賞

地球環境にやさしく、働く人の快適さを追求／角藤

都市ガスが実現する「省エネと安全」／長野都市ガス

第2回JIA長野建築賞

求められる建築とは



伊東豊雄 (いとう・とよお) 氏

伊東豊雄建築設計事務所代表。1941年、京城(現韓国ソウル市)出身、幼少期から中学卒業まで下諏訪町で過ごした。東京大学工学部建築学科卒、菊竹清則建築設計事務所を経て独立。2013年にプリツカー賞受賞。県内の主な作品に、諏訪湖博物館・赤彦記念館、まつもと市民芸術館、信毎メディアガーデンなど



信州における「新しい住まい方」

伊東豊雄氏が選ぶ5作品

<賞の概要>

第2回 J I A 長野建築賞は11月30日、表彰式を松本市内で開き、最優秀賞などを決めた。2022年度にスタートした新しい賞で、2回目の今回は全73作品の応募があり、盛り上がりを見せている。この賞の特徴は、「国内外で活躍するひとりの建築家の独自の視点により、長野県内につくられた優れた建築を顕彰」するところであり、第1回は内藤廣氏、第2回は伊東豊雄氏が審査員を務めた。

<伊東氏が求めた課題>

第2回の同賞で伊東氏が応募作品に求めたのは、1. 自然と親密に関わり、自然を満喫できる暮らしを保证する建築、2. 自然と親密に関わり、人と人を結びつける建築、3. 自然と親密に関わり、人に安らぎを与える建築、4. 自然と親密に関わり、人に生きる力を与える建築—の4つ。伊東氏は、コロナ禍の中で見られた都市部から地方への移住に着目。長野県での「新しい住まい方(=働き方)のモデル」になりうる、明日に向かうエネルギーに満ちた提案を—と求めていた。8月1日から9月20日までの期間で募集し、73点の応募があり、書類審査による1次審査で5点を選定。11月14日、15日に設計者と施主、施工者らを交えての現地審査を経て最優秀賞1点、優秀賞1点、入賞3点を決めたもの。

最優秀賞

「コードマーク御代田」 設計者:会田友朗氏(アイダアトリエ)

「スパイラル状の建築で、これから上へ上っていくような気持ちが表れた建築。感心したのは、建築と、それをつくろうとしたクライアントが一つになって、活動と建築が一つのものであるということが、私の求めた「新しい生活」の長野モデルに応えたものだった。民間の施設だが、地域の拠点となるような、小さなコミュニティのための施設で、地域のために開いていく、地域をつくっていく精神にみなぎっていた。」



写真 野秋達也

優秀賞

「Fujimi Hut」 設計者:坂牛卓氏、平田柳氏(O・F・D・A)

「三間角の本当に狭いスペースだが、入ってみて、こんなことができるんだと驚いた。内側は全て構造用合板でつくられていて、ベッドからベンチになったり、ダイニングのテーブルに変わる。3段階の高さを利用した流動的な空間がつくられていた。大勢の人が集まり、寝泊まりもするということにも驚いた。」



写真 原田教正

入賞

「miike」 設計者:井原正揮・井原佳代(ihrmk)

「美容院の建築で、クライアントからの相談に農業用倉庫を周囲の風景に合わせてリノベーションすることを提案したものの、素朴な佇まいがそのまま残っていて、リノベーションのプロジェクトの中で一番良かった。」



Photo Kenya Chiba

入賞

「黒姫の山荘」 設計者:下崎明久(下崎建築設計事務所)

「完成度の高い別荘。クライアントからの詳細な要望に一つ一つ解決するという緻密な作業をしたもので、ファサードも内部のインテリアも本当にきれいでよくなった建物だった。」



写真 林写真事務所・林安直

入賞

「Sell House / もりのいえ」 設計者:遠野未来(遠野未来建築事務所)

「木造のドームで、非幾何学的な建築。自然素材だけでつくった、ある意味、最もエネルギーのかかった力作。審査員によっては最優秀賞になっただろう。施工も大変だったと思う。」



Photos takeshi noguchi

第1回 大賞は「新張の家(みはりのいえ)」

2022年度にスタートしたJIA長野建築賞の第1回は、内藤廣氏(内藤廣建築設計事務所代表)が審査員を務めた。

募集に際して内藤氏が求めたのは、激甚化する自然災害やコロナ禍、ウクライナ危機など、不安感に覆われた日々の中で「人々の気持ちに答え、それを受け止めるような建築」。内藤氏は「建物に『だいじょうぶ』と言っているような、その空間が『ここに居てもいいよ』と語っているような、大地や風土に根ざし、自信を持って次の世代に渡せるような、そんな奇跡のような建築はないだろうか。せめて、その光明を予感させるような建築はないだろうか」と問い、それを広く世に知らせたいとしていた。

第1回は計59作品の応募があり、大賞に「新張の家(みはりのいえ)」花岡徳秋(花岡徳秋建築設計事務所)を選定。入賞に「森の小屋」佐藤文+鹿嶋信哉(K+Sアーキテクト)、「納屋の佇まいの家」池内剛(池内建築図案室)、「大町八王子神社 授与所」吉田満+保科京子(スタジオアウラ)を選んだ。

大賞の「新張の家(みはりのいえ)」について内藤氏は、「不思議な空間体験」だったとして現地審査での印象を紹介。「骨組みを残すこと自体をクリエイティブな価値にうまく置き換えることに成功していた。意匠的に斜めにRCの内壁を作り、それを利用して二階を作った。実にシンプルでミニマム。それがイキイキとした空間を生み出している」と評価した。

